

報 告

# 平成 20 年度 喜安記念業績賞紹介

## 編集にあたって

土井 美和子

喜安記念業績賞選定委員会委員長  
(株)東芝 研究開発センター

名誉会員 故喜安善市先生のご遺族、喜安路子様から、本会へご寄付をいただきました。いただいた資金をもとに、「喜安記念業績賞基金」を設置し、従来の業績賞を「喜安記念業績賞」として新設いたしました。そして、平成 19 年度受賞者から適用する運びとなったので、従来の表彰状に加え、新たに副賞として賞金が授与されることになりました。その点でも今回の受賞者は誠に幸運と言えます。

この「喜安記念業績賞」は、情報技術に関する新しい発明、新しい機器や方式の開発・改良、あるいは事業化プロジェクトの推進において、顕著な業績を上げ、産業分野への貢献が明確になったものを選定し、その貢献者に贈呈するものです。

平成 20 年度は、喜安記念業績賞選定委員会にて、表彰規程ならびに選定手続きに基づき、推薦のありました候補について、厳選な審査を経て、期せずして、バリアを超えるための技術である 2 件が受賞しました。1 件は、言語間のバリアを越えるための「携帯端末など組込み機器向け多言語自動音声翻訳システムの実用化技術の開発」、もう 1 件は視覚障害というバリアを越えるための「音声ブラウザの開発と Web アクセシビリティ技術普及への貢献」です。

「携帯端末など組込み機器向け多言語自動音声翻訳システムの実用化技術の開発」では、言語間のバリアを越えるための要素技術を培い、実用に供するために、小型端末での稼働という大きなバリアを乗り越えました。「音声ブラウザの開発と Web アクセシビリティ技術普及への貢献」では、ハイパーテキストリンクの音声表現や表構造のナビゲーションなど、言葉でないものを音声表現するというメディアのバリアを乗り越え、さらに Web アクセシビリティ普及という技術以外のバリアも乗り越えてきました。

「携帯端末など組込み機器向け多言語自動音声翻訳システムの実用化技術の開発」は製品化した端末が現在販売されていないのは残念ではありますが、産学官連携フォーラムなどにより、さらなる言語間のバリアを乗り越えることを期待しています。また、「音声ブラウザの開発と Web アクセシビリティ技術普及への貢献」は、今後は、ダイナミックコンテンツや、高齢者や発達途上国など、より多様なバリアを乗り越えていくことを期待しています。

受賞者各位と、両者にかかわられた多くの方々に敬意を表すとともに、心から受賞を祝します。

(平成 20 年 5 月 6 日)